

# 作業療法士学科（昼間3年制／夜間4年制）

## 養成目的

少子高齢化を迎え作業療法士の活動する場も地域へと変化しつつある。その様な情勢において人や社会と繋がりが社会貢献できるような人材育成と人材配置が必要となる。また、身体領域・発達領域・精神領域・老年期領域など作業療法が対象とする幅広い領域に対応しつつ、年々高度化する専門性に応えるためには生涯にわたり自己研鑽が求められる。さらに新たな領域の拡大に貢献しうる柔軟性、包括的視点、問題解決能力、人間力を兼ね備えていく必要がある。

本学科における作業療法士教育は、本校の建学の理念（実学教育・人間教育・国際教育）を基盤に、対象者の障がいの状況や精神的苦痛などを的確に捉えるための知識や技術の習得、対象者に共感できる豊かな人間性や倫理観などの情意面を涵養し、対象者の生活を再構築し社会へ繋げ、且つ自らも社会へと繋がっていけるマネジメント能力を有する医療専門職『繋がる作業療法士』を養成することを目的とする。

## 養成目標

『繋がる作業療法士』に求められる能力、1) 物事に創造的に取り組むためのコミュニケーション能力、2) 専門的知識・技術を基盤に置いた実践的問題解決能力、3) 作業を探求する態度、4) 人への興味関心、自己研鑽、発信力など人や社会と繋がる力、の養成を教育方針とする。

（ゼミ活動『作業療法総合演習』：昼間部1・2年次、夜間部1・2・3年次）

- ・昼間部2年間、夜間部3年間を通じ各教員のテーマに沿った活動を行い、『繋がる作業療法士』に求められる能力を備える。

（導入期：昼間部1年次、夜間部1・2年次）

- ・入学前教育プログラム、新入生研修、初年次担当チーム制による朝礼・終礼・定期面談・日常生活指導等を通じ、健康的な学生生活の基盤となる規則正しい生活習慣を身につける。
- ・解剖学・生理学・運動学等、医学の基礎として学ぶべき知識を統合したカリキュラム、知識の定着のための「寺子屋」、「国家試験演習」の導入、学習後の実力確認テスト等を通じ、以後の専門教育に向けての知識基盤を確立する。
- ・体育祭等の学科イベント、見学実習及びセミナー、学内実習・演習科目、グループ演習授業を通じ、円滑な人間関係を築き学術的探求をすることができるコミュニケーション能力を養う。

（専門教育・評価実習期：昼間部2年次、夜間部3年次）

- ・授業におけるグループディスカッション・ロールプレイ・フィールドワーク指導、ボランティア体験等により、現場で生きる行動力・積極性・応用的なコミュニケーション能力やマナーを身につける。
- ・評価実習参加における総合試験（筆記、OSCE（客観的臨床能力試験）など）に向けた作業療法評価実習による授業、障がいを持つ当事者による授業協力を通じ、より現実的な現場をイメージした学び、治療法を検討する。

（臨床実習・国家試験対策・就職準備期：昼間部3年次、夜間部4年次）

- ・海外研修を通じてグローバルな医療人の視点を身につけ、共に医学を志す仲間との国際交流を深める。
- ・実習担当教員との個別・小グループでの準備を経て臨床実習に臨み、現場での生の知識・技術を積極的に学ぶことで臨床能力を養う。
- ・充実した臨床実習と「就職フェア」、「マナー教育」やキャリアセンターによるサポートにより、生涯にわたって自己研鑽のできる自立した職業人を目指す。
- ・滋慶グループ内の他校との連携による包括的な国家試験対策と教員各自の専門性を活かした専門教育、成績に応じた個別指導を通じ、全ての学生が国家試験に合格することを目標とする。

## 取得目標資格

作業療法士（国家資格）（卒業時に受験資格取得）

福祉住環境コーディネーター（昼間部2年・夜間部3年次に選択科目として対策授業あり）

## 就職分野

一般病院（リハビリテーション科、デイケアセンターなど）、回復期リハビリテーション病院、精神病院、診療所、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、身体障がい者福祉センター、心身障がい児施設、訪問看護ステーション、行政機関 など

## 職 種

作業療法士